

(別紙1)

## 総括研究報告書

課題番号	2023C-26				
研究開発課題名	小児における術後慢性疼痛の実態と生活の質への影響を探る研究				
分類※	<input type="checkbox"/> ①	<input type="checkbox"/> ②	<input type="checkbox"/> ③	<input type="checkbox"/> ④	<input checked="" type="checkbox"/> ⑤ <input type="checkbox"/> ⑥ <input type="checkbox"/> ⑦
区分	<input type="checkbox"/> A	<input type="checkbox"/> B	<input checked="" type="checkbox"/> C	<input type="checkbox"/> E	<input type="checkbox"/> S
主任研究者	所属	手術集中治療部 麻酔科			
	役職	医員			
	氏名	清水 薫			
実施期間	2023年 4月 1日 ~ 2023年 3月 31日				

※分類は下記①～⑦より選択

- ① 日本の成育分野の疾患の研究の基盤となる研究
- ② 診断、治療及び予防法の開発に関する研究
- ③ 発症機序や病態の解明等を行う研究
- ④ 診断や治療のための基準の開発等に関する研究
- ⑤ 患児・者のQOL向上に結びつく研究
- ⑥ 研究的視点や技術をもつ医療従事者を育てるための研究  
(プロトコル作成のフェージビリティ研究)
- ⑦ 政策提言に結びつく研究

### 成果の概要

成育医療研究センターにおいて単施設前向き横断研究を行った。2023年4月～2024年1月の期間内に当センター移植外科外来を受診した6歳以上の患者のうち、18歳以下の年齢で当院にて肝移植術を受け、術後3か月以上が経過している者に対して自記式アンケート調査を行った。アンケートでは回答時点での創部痛の有無およびその強さ、性状、日常生活への支障について調査した。

対象患者385名のうち52名が除外（精神発達遅滞51名、日本語不自由1名）され、80名には未配布であり、最終的に253名に対してアンケートが実施された。242名より有効回答を得た。回答者のうち女性は136名（56.2%）、手術時月齢の中央値は24ヶ月（四分位9-86）、術後経過月数の中央値は102.5ヶ月（76.3-139）、アンケート配布時年齢の中央値は12歳（9-15）であった。肝移植の適応となった原疾患としては胆汁うっ滞性疾患が126名（52.1%）と最多であった。

「創部痛あり」と回答した人数は33名（13.6%）、術後慢性疼痛の定義（Visual analogue scale (VAS)  $\geq 3$ ）を満たしたのは12名（5.0%）であった。「術後疼痛あり」と回答した者について、疼痛の程度は軽度（過去1ヶ月の最大VAS中央値1.6）で、神経障害性疼痛の可能性は少なく（Pain DETECT score 中央値6）、多くは「経時的に改善傾向」と回答した（60.6%）。大部分が日常生活への影響はないと回答した（29名、87.9%）一方で、痛みのために入眠できない（3名、9.1%）、学校に行くことができない（2名、6.1%）と回答した者も一部存在した。ほとんどの患者

が痛みに対する介入を受けていなかった（31名、94.0%）。

術後慢性疼痛を発症した人数が少なく、リスク因子に関する多変量解析の実施は困難であったため、創部痛に関する多変量解析を実施した。創部痛のリスク因子として有意であったのは性別（女性、OR=2.91; [95%CI: 1.24-6.83]）のみで、手術時月齢、術後経過月数、開腹回数は有意な因子ではなかった。

本研究は小児期に肝移植術を受けた患者の術後慢性疼痛に関する世界初の調査である。全年齢が対象となる肝移植術後の患者を対象に選んだ点に本研究の新規性がある。乳幼児期に手術を受けた患者の術後遠隔期の創部痛に関して調査した研究は少なく、有意義な結果となった。Limitationとしては単施設の研究であること、術後経過年数が不均一であることがあげられ、今後前向きコホート研究による検証が必要である。（944字）